

全国ネット通信

Vol.03

2011

夏号

平成23年6月5日発行

福島原子力発電所事故と地球温暖化問題

地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）専務理事
（一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 運営委員会 委員）

早川 光俊



3月11日午後2時46分、東日本を襲ったマグニチュード9.0の地震と津波は、死者・行方不明者が2万4,000人を越える未曾有の被害をもたらしただけでなく、福島第一原子力発電所の6機の原子炉のうち1～4号機が全電源喪失により冷却機能を失い、運転中であった1～3号機が炉心溶融（メルトダウン）となる世界史的な原発事故を引き起こした。

原子力発電は1950年代半ばに商業利用が始まり、現在432基（2010年1月1日現在）が稼働しているが、これまでメルトダウンを起こした事故は1979年のスリーマイル島原発事故と1986年のチェルノブイリ原発事故だけである。いずれも1基の原子炉の事故であり、同時に3基の原子炉がメルトダウンを起こした例は無い。国際原子力機関（IAEA）は、原子力発電所の事故・故障の評価尺度を「事故」と「異常な事象」に分け、事故は7から4、異常な事象は3から1の7段階に分類し、チェルノブイリは一番深刻な事故でレベル7、スリーマイル島はレベル5に分類されているが、今回の福島第一原子力発電所事故はチェルノブイリと同じレベル7とされた。

原子力発電所事故は、他のエネルギー源の事故と比べものにならない深刻な被害をもたらす。チェルノブイリでは事故から25年たった今も30キロ圏内が立入禁止となっており、今回の福島第一原子力発電所事故でも県域の約10%が警戒区域や計画的避難区域に指定され、福島県からの県外避難者は3万4,743人（5月16日現在）にのぼる。

日本政府は、「原子力発電は、発電過程において二酸化炭素を排出しない低炭素電源の中核として、我が国の基幹電源としてこれまで以上に大きな役割を担わなければならない。原子力発電の活用なくしては、エネルギー安定供給はもちろん、地球温暖化問題への対応はおおよそ不可能である。」（原子力発電推進強化策：2009年6

月：経済産業省）とし、2010年6月に策定された「エネルギー基本計画」では、2020年までに9基の原子力発電設備を増設し（設備利用率約85%）、2030年までに14基以上を増設（設備利用率90%）するとされている。しかし、今回の福島第一原子力発電所事故は、こうしたエネルギー政策の根本的な見直しの必要性を示している。原子力発電に頼らない、再生可能エネルギー中心のエネルギー政策の立案・実施が喫緊の課題である。また、産業界の一部などからは25%中期目標の棚上げの声があがっているが、これだけ世界に迷惑をかけている原発事故を理由に、国際公約である25%を棚上げするようなことがあってはならない。

原子力発電は、これまで何の国民的議論や住民合意もなく推進されてきた。原子力発電を基幹電力と位置づけるべきか、また、有効な地球温暖化対策と考えるべきかどうかは、①エネルギー供給の安全保障（原子力発電なしに電力需要を賄えるか）、②安全性（チェルノブイリやスリーマイル島などの事故や今回の福島第一原子力発電所事故のような地震への耐性）、③環境性（再生可能エネルギーなどの他の電源とのCO2排出量の比較）、④経済性（他の電源との発電コストの比較）、⑤放射性廃棄物の処分問題、⑥破壊活動に対する脆弱性、などを検討したうえで、国民的な議論を経て決められるべきである。何よりも、原子力発電は、原子炉に大量の放射性物質が存在し、いったん暴走を始めると制御が極めて困難な技術であることを考えなければならない。

原子力発電で発電された電気は現代世代が使ってしまい、将来世代には放射性廃棄物の管理や、寿命の尽きた原子炉を数十年かけて廃炉にする負担が残される。原子力発電を地球温暖化対策とすべきかどうかを、真実に議論することが、私たち現代世代の将来世代への責務である。

東日本大震災に伴う電力不足に対応するための 家庭でできる夏の節電特集

東日本大震災において被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りしています。

今回の大震災の影響で多くの発電所が停止したため、また、原子力発電所による発電の見直しなどにより、東京電力および中部電力では、電力を十分に供給できない状態が続いています。そして、1年間の電力需要のピークとなる夏に向け、たいへんな電力不足が予想されています。

全国ネットおよび地域の地球温暖化防止活動推進センターでは、これまでの温暖化防止のノウハウを活かして、さまざまな節電対策を提案しています。この節電を今夏だけの特別なものにせず、低炭素社会づくりに向けてのライフスタイル見直しにつなげていきましょう。

夏の節電 21を提案しました

東日本大震災に伴う電力不足に対応するための「家庭ですぐ出来る節電21」の冬バージョンに続き、夏バージョンを公開しています。

このリストの前提条件

- ・夏期における対策を中心にしています。
- ・朝と晩の家庭での電力使用ピークを抑えることを主目的としています。
- ・極度のがまんをせず、継続的に取り組める項目を中心にしています。
- ・そのほか、効果の高い対策を加えています。
- ・高い投資をせずに取り組める項目を選定しています。

対象	分野	対策	
屋外	遮熱 断熱等	1. 窓に空気層のある断熱シートを貼る (もしくは内窓を設置する)	
		2. 部屋の外によしず、すだれを設置する	
		3. お風呂の残り湯で朝夕に打ち水をする	
リビング	冷房	4. 扇風機・うちわなどを活用する	
		5. 冷房の温度設定を28℃にする	
		6. 冷房時にカーテンやブラインドを閉める	
		7. 冷房時に家族がいっしょの部屋で過ごす	
		8. エアコンのフィルターを掃除する(月2回程度)	
		9. 冷房を使う時間をできるだけ短くする (就寝前1時間はオフなど)	
		10. 冷房時に部屋のドアやふすまを閉め、 冷房範囲を小さくする	
		照明	11. 白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する
			12. 照明を使う時間を可能なかぎり短くする
	テレビ	13. テレビを見る時間を少なくする (つけっぱなしにせず、見る番組を絞るなど)	
14. テレビの画面を明るすぎないように調整する			
台所	保温	15. 電気ポットの保温をやめる	
	調理	16. 炊飯ジャーの保温をやめる	
	冷蔵	17. 冷蔵庫を壁から適切な距離を離し、 周りや上にものを置かない	
		18. 冷蔵庫の温度設定を強から中にする	
洗濯	乾燥	19. 冷蔵庫を整理し、開ける時間を短くする	
		20. 衣類乾燥機や洗濯機の乾燥機能を使わない	
その他	待機電力	21. 電気機器は使い終わったらプラグを抜くか 電源タップを切り、待機電力を減らす	

効果的なCO2削減・節電対策に！ CSR活動のPRに！

東京電力管内の事業者向け 従業員に対する 家庭エコ診断を行っています

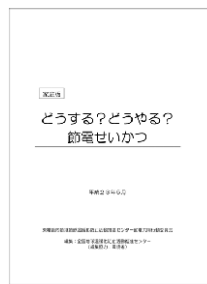
環境省では「従業員に対する家庭エコ診断」の参加事業者を公募しています。電力需要の逼迫を背景に推進されている事業活動でのCO2削減・節電対策に加え、事業者の従業員の家庭での取組みについて、その一助となります。

- 従業員の方の家庭を診断します。家庭訪問ではなく、事業所での集団診断を行います。
- 環境省が派遣する診断員が診断をします。
- 診断に係る費用は無料です。



▲家庭エコ診断受診イメージ
(診断員と受診者がマンツーマンで行う)

家庭版節電マニュアル 「どうする？ どうやる？ 節電せいかつ」 を発表しました



▲ホームページからもダウンロードできます

今年の電力不足の基礎知識から、具体的な削減メニューまで含んだ内容となっています。

家庭で削減が求められている電気使用量の**15%削減の対策モデル**も示しており、冷房だけではなく、照明やこまめな取組みで削減するメニューも提示しています。がまんをせず、継続的に取り組める項目を中心に効果のある節電方法をまとめています。



▲GEOCでの展示の様子
▲NEW環境展における
ブース展示の様子

学習会などで使える教材ツールを作成しました

家庭でできる節電について考える教材ツール「わが家の節電～エアコン編～」を作成しました。夏に特に多く使われる冷房にテーマをしぼり、ムリせず涼しく過ごす効果的な節電を考えることのできる30分ほどの体験型プログラムが用意されています。

この教材ツールは5月24～27日に東京で行われたNEW環境展・地球温暖化防止展におけるセミナー講座およびブース展示での活用、また、東京・渋谷の地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)でも展示しております。

貸出にも整備しておりますので、ぜひ活用ください。

浜松市センターは平成22年4月に、浜松市より地球温暖化防止活動推進センターに指定されました。

浜松市エコハウスモデル住宅「きづきの森」の運営を中心に、地域の環境学習リーダーの養成や学校への出張講座などを行っています。きづきの森は、市民はもちろん、海外からの団体や企業の研修団体なども訪れる、浜松市センターの拠点となっています。



- ▲ エコハウス住宅
きづきの森
- ◀ 写真(左)
自然の風を家の中に取り込む昔からの知恵「袖壁」がつけられています
- ◀ 写真(右)
白熱電灯、蛍光灯LED電灯を体感しながら比較できる部屋もあります

大橋千秋 浜松市センター長に聞きました

昨年度は、くらしのエコアドバイザーの講座を通して20数名のアドバイザーの育成と家庭のエコ診断を行いました。今年度は環境学習リーダーのさらなる育成と地域での講座や学習会を積極的に、きづきの森を「地域活性の場」と発展させていく予定です。

「家庭」から「学校」へ、さらに第3の教育の場と言える「地域」とのつながりを向上させ、そのうえで浜松市が環境防災の観光都市（エコタウン地域づくり）のモデル地区となるような地域づくりを目指していきたいと考えています。

浜松市エコハウスモデル住宅「きづきの森」

浜松市の気候風土を活かした「自然との共存」を前提に地域の素材利用、ライフサイクルCO₂、住まい方という様々な切り口から考えつくされたエコハウスのモデル住宅。

自然風の力を利用した熱循環や通風と換気をはじめ、地域の自然素材を活かしたつくりや、昔からの知恵はもちろん、最新の断熱・気密や太陽光発電や太陽熱集熱器も取り入れられています。

地域の活動紹介

今回は、低炭素地域づくり全国フォーラム～低炭素杯2011～の環境大臣賞準グランプリを受賞した鹿児島県出水市の「^{ろくがつだ}六月田下自治会^{しも}」の代表 松田正幸さんにお話を聞きました。

低炭素杯2011環境大臣賞 準グランプリを受賞された取組みについて、簡単にお聞かせください。

平成18年4月からCO₂の削減活動に取り組み、10%削減を達成しつづけています。

私自身が地球温暖化問題を意識し始めたのは10年ほど前。長い地球の歴史の中でCO₂の濃度がここ100年ほどで急激に上昇している「異常なグラフ」を見たのがきっかけでした。

その後、自治会長を引き受けることになり、環境部を発足。集落全世帯で二酸化炭素削減のエコ活動に取り組んでいます。各家庭から毎月提出する実績データからCO₂発生量と光熱費をとらえ、目標に対し省エネ活動の結果がどうだったか各家庭と集落全体で評価出来るシステム運営で、国が進める低炭素社会づくりを集落全世帯で目指す活動をしています。

低炭素杯準グランプリを受賞されて、周囲の反響はありましたか？

出水市の広報誌2月号で、準グランプリの受賞についての誌面を急遽入れてくださり、3月号では特集記事も組んでくださいました。その後発生した東日本大震災以降は、節電の取組みや具体的なノウハウ、5年間のデータ蓄積という側面から特に多くの取材を受けております。地元の新聞社やテレビはもちろん、東京からもテレビの取材が来ています。とても大きな反響を感じる毎日です。



▲ 六月田下自治会のCO₂削減データを見せながらお話ししてくれました



▲ 笑顔の六月田下自治会のみなさん

エコ活動を続けるコツは？

生活の質を落とさず、無理なく、みんなで楽しく活動することです。生活のちょっとしたムダを探しをするだけで、光熱費が浮き、暮らしが豊かになる。心に余裕が生まれてその余裕が「顔」に出て、自然と笑顔になる。エコ活動のおかげで、集落全体が元気で生き生きしています！

地域で活動されている方にメッセージを！

個人で取組みを行うのではなく、集落や地域で楽しく取り組みましょう。それが生活や地域コミュニティの「つながり」を生みます。私たちの自治会のような仕組みが全国の地域の「つながり」を生むきっかけになれば、低炭素社会づくりへの第一歩になると思っています。

貸出教材をご活用ください

全国ネットでは、地球温暖化についてわかりやすく伝え、地球温暖化防止に向けた行動への一歩を踏み出すためのきっかけとなる参加型の学習教材「活動プログラム」等のツールの貸出を行っています。地球温暖化の情報を見聞きするだけでなく、参加者が頭や体を使ったりグループワークをしながら温暖化問題を考え、活動へのきっかけとなるように工夫されたツールを各種ご用意しています。

- 貸出物：パネルセット29種類、タペストリー9種類、紙しばい、ゲーム、DVDなど
- 貸出料金：原則2週間まで
- 料金：無料（送料のみご負担ください）

A03-05 「わが家の節電～エアコン編～」

NEW!

エアコンを切り口に自分の夏の生活スタイルを振り返りながら参加者一人一人が「がまん」、「無理」をしないで効果的で、続けていくことの出来る「自分に合った節電方法」を見つけていくツールです。クイズやワークシートなどがセットになっており、ワークショップ形式で楽しく取り組める内容となっています。



▲2ページでも紹介している夏の節電に関する教材ツールです

東日本大震災にかかる 救援物資支援活動について

全国ネットでは「東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)に係る救援物資支援活動」を始動させて頂いたところ、都内、西日本を中心に多くの方々から、救援物資のご送付を頂きました。

3月27日(日)に、救援物資第1陣を東京都庁より送付いたしましたが、その後、さらに多くの物資をいただき、第2陣を宮城県地球温暖化防止活動推進センター様に向けて発送、直接被災地へ送付いたしました。



皆様よりいただいた支援物資は合計で、赤ちゃん用紙おむつ 77パック、おしり拭き 51パックとなりましたことをご報告いたします。

多くのご支援、ご協力、本当にありがとうございました。

編集後記

本紙2ページでも紹介していますが、先月東京ビックサイトで行われたNEW環境展・地球温暖化防止展に出展してきました。全国ネットではブースの出展のほかに「明日のための我が家の節電講座」と題したセミナーを2日間行いました。私は初日の担当をしたのですが、50名の席はほぼ満席になり、びっくり。来場者の節電に対する意識が非常に高くなっているのを感じさせられました。ブースでの対応でも「緑のカーテンを始めたいのだけど、ゴーヤの苗がどこに行っても売り切れで…」、「すだれを早速買いました!」など、関心の高まりを感じさせられる声をいただきました。

自分のライフスタイルに合った無理のない、持続可能な節電を考え、実行できる夏になるといいですね。

総務企画グループ 井原 妙



低炭素杯2011 環境大臣賞受賞団体 イギリス視察訪問報告会

参加者募集中
参加費：無料

国境を超えたネットワークを通して ～低炭素社会に向け、わたしたちにできる事～

低炭素杯2011において、環境大臣賞を受賞した4団体が、2011年5月30日～6月4日にかけて、イギリスの環境団体を視察訪問し、交流を行いました。イギリスでの視察報告を通して、今後の日英における地域からの低炭素社会への挑戦について考えていきます。本紙3ページ「地域の活動紹介」の六月田下自治会の松田さんからの報告もあります！皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時 2011年6月19日(日) 15:00～17:30

会場 情報オアシス 神田セミナーハウス
東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル5階
(J R等「神田駅」から徒歩3分)

定員 約120名

主催者挨拶

長谷川 公一 (一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 理事長)

基調講演

日英における低炭素社会への挑戦
～コミュニティから始まる環境改革～

講師：ジェイスン・ジェイムズ 氏

(ブリティッシュ・カウンシル駐日代表、英国大使館文化参事官)

イギリス視察報告

イギリス視察訪問：環境NPO オフィス町内会 森の町内会
参加者からの報告：大分県立日田林工高等学校 林産クラブ
(環境大臣賞受賞4団体)：鹿児島県出水市 六月田下自治会

：京都府立桂高校 TAFF「地球を守る新技術の開発」班

パネルディスカッション

コーディネーター：長谷川 公一 (東北大学大学院教授、全国ネット理事長)

コメンテーター：ジェイスン・ジェイムズ 氏

パネリスト：イギリス視察訪問参加者 4団体



エコアナウンサー

櫻田彩子の ミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ちい散歩」レポーターほか、
低炭素杯2011での司会・進行など。



私も
賛助会員
です!

今回の震災では、多くの方が「自分にできること」を自問自答し行動に移していらしたのだと思います。募金や物資への協力、家族や友人知人への励ましと、「一緒だよ」という気持ちを伝えること…。

節電はすぐに「できること」であり、人の役に立つ、家族のためになるという喜びを感じながら長く続けていけるのではないのでしょうか。

そこで、食いしん坊な我が家の簡単節電レシピ!

素麺やパスタの細いものは茹で時間が短くて済みます。さらに食塩が入っているものは、ゆで汁もスープとして使えます。とろみがついてあったまりますよ。そこにお好みの具や鰹節を飾って、ゴマ油を回しかければ出来上がり。手抜き? そうとも言えます(笑)。それから毎日使うお出汁、その都度昆布などを煮出すのは時間もかかるし、電気やガスを使います。でも、時間が調理してくれま



ピンに昆布や干し椎茸等を入れて一晩おけば絶品出汁が出来上がり。お味噌汁や煮物にすぐ使えて重宝します。出汁の役割を終えた昆布等は煮物や佃煮に再利用して、体も心もお財布も満足です。おためしあれ!

編集・発行

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9-17 神田第三中央ビル5F

TEL. 03-6273-7785 FAX. 03-5280-8100 WEB. <http://www.zenkoku-net.org/>

R100
古紙(パルプ)配合率100%再生紙を使用

PRINTED WITH
SOY INK